

## 銅の表情を楽しむビル

# haramo cuprum

東京郊外の駅前に、個性的な輝きを放つビルがある。巨大な銅色の壁。よく見ると、ビル全体が銅で覆われている。全身に銅をまとったその外観は、温かみのある印象で地域に溶け込んでいた。



カフェの天井、壁に張られた銅板。  
「店名『キッチンカフェ Cu-be (キューブ)』には店の内装にあわせ、銅を表すCuの文字を使いました」  
(同店店長・久住氏)



銅で覆われたビルの全景。竣工当初は金褐色に輝いていたが、現在は落ち着いた銅色に覆われている。



3階のカフェ屋上から見上げた銅の外壁

でも、銅のさまざまな表情が楽しめそう。

このカフェの内装にも銅板が使用されている。カフェの壁、天井を覆う銅板はモダンなインテリアとの相性もよく、日中は明るい自然光の中で洗練された輝きを、夜は間接照明を受け落ち着いた色合いを見せる。外観だけでなく店内でも、銅のさまざまな表情が楽しめそう。

「道路際の敷地が計画道路にあたり、法律上の高さ制限からこの屋上が生まりました。広い屋上をつの住居が占有するのではなく、有効利用しようと考え、カフェを設けることを提案しました」

同ビルでは、ビル前面・背面の壁、側面の壁の一部、駐車場、エントランスに銅板を採用している。使用された銅板は主に○・四mm厚のもので、総面積は約九五〇㎡にもおよぶという。

このビルのもうひとつの特徴は屋上だ。同ビルには三つの屋上があり、そのうち最も広い三階部分の屋上がカフェのテラスとして使われている。

「外壁の仕上げ材をえらぶ際、施工との相談のなかで『表情のある素材』にしたいとの希望がありました。そこで、年月とともに色合いが変化し、表情が出る銅を使うと考えました」

同ビルの設計を担当した有限会社スキーマ建築計画・長坂 常氏に話をうかがった。

東京都昭島市、JR青梅線・中神駅前。昔ながらの商店が軒を並べる地域にharamo cuprumはある。九階建ての住宅・店舗の複合ビルで、二〇〇四年三月に竣工した。外観をぐるりと見回すと、隅々まで銅で覆われていることに驚く。同ビルの設計を担当した有限会社スキーマ建築計画・長坂 常氏に話をうかがった。

東京都昭島市、JR青梅線・中神駅前。昔ながらの商店が軒を並べる地域にharamo cuprumはある。九階建ての住宅・店舗の複合ビルで、二〇〇四年三月に竣工した。外観をぐるりと見回すと、隅々まで銅で覆われていることに驚く。同ビルの設計を担当した有限会社スキーマ建築計画・長坂 常氏に話をうかがった。



有限会社スキーマ建築計画  
代表取締役 長坂 常氏

銅のもつ温かみのある色合いが醸し出すものだろうか。九階建てのビルにもかわらなく、haramo cuprumには無機質な印象がなく、地域に自然に溶け込んでいるように見える。実際、同ビルは屋上のカフェを中心に、住人や地域の人々に親しまれているようだ。これからこのビルが地域の人々とともに年を重ね、どのような表情を見せてくれるのか、非常に楽しみである。

側面から見たビル。隅々まで銅で覆われていることがわかる。



駐車場の壁面、柱に張られた銅板



銅を使用したエントランス扉